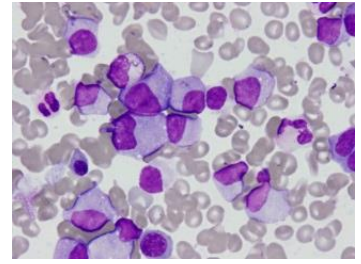


多発性骨髄腫 Multiple Myeloma (MM)

形質細胞が腫瘍化・増殖し M タンパクを分泌、貧血、骨病変、腎障害等の多彩な臨床症状を来す疾患です。中高年に多く、人口の高齢化とともに増加傾向にあります。一般に緩徐な経過を取りますが、治癒は困難であり、それだけに病悩期間が長い疾患でもあります。以前は有効な治療法が少なく造血器腫瘍の中でも地味な存在だった骨髄腫ですが、造血細胞移植の導入、分子標的薬の登場によりここ 20 年ほどで治療成績が大きく向上し、すっかり HOTT



な領域となりました。当院でも若年患者には積極的に自家移植を実施、高齢者であっても全身状態が許す限り分子標的薬を含めた多剤併用療法を実施し症状・予後の改善に努めています。また多施設共同の臨床試験にも積極的に参加し、よりよい治療をご提供できるよう心がけています。原因不明の貧血や腎障害、あるいは高タンパク血症など、骨髄腫が疑われる患者さんがおられましたら是非当科にご紹介下さい。

多発性骨髄腫は血液細胞の1つである形質細胞が「がん化」して増殖し、種々の症状を引き起こす病気です。形質細胞は白血球の一種であるリンパ球が分化・成熟した細胞で、健康な人の体内では病原菌から体を守る免疫グロブリン（抗体）というタンパク質を作る働きをしています。多発性骨髄腫では、骨の中にある骨髄のあちこちで（多発性）がん化した形質細胞が増殖し、M タンパクと呼ばれる異常な免疫グロブリンを産生・分泌します。この病気の原因はまだ分かっていませんが、患者の多くは 60 歳以降の高齢者であり、加齢がリスク因子であることは明らかです。一般には年単位でゆっくりと進行する慢性の経過を辿る病気ですが、個人差があり、急速に進行・悪化する場合があります。

多発性骨髄腫の症状

最も多い症状は背中や腰の痛みです。多発性骨髄腫は骨を侵すため骨が脆くなり骨折しやすくなるからです。また骨が侵された結果、骨に含まれているカルシウムが血液に溶け出して血中カルシウム濃度が異常に高くなる高カルシウム血症も見られます。貧血による倦怠感、腎機能低下も頻度の高い症状です。この4つの症状は骨髄腫の代表的な症状で、頭文字（Calcium の C、Renal insufficiency=腎障害の R、Anemia=貧血の A、Bone lesion=骨病変の B）をとって CRAB と呼ばれます。CRAB の他、体の免疫力が低下して感染症にかかりやすくなる、血液中の M 蛋白が増えて血液がドロドロになり血行障害を来す過粘稠症候群などの症状も見られます。

骨髄腫の病期

M 蛋白の量や、CRAB 症状の有無などで決める Durie&Salmon 分類、血清アルブミンと $\beta 2$ ミクログロブリンの量で決める国際臨床病期分類があります。

骨髄腫の治療

骨髄腫は進行こそゆっくりですが、完治が困難な病気です。したがって治療の目標は病気の進行を抑え、症状を和らげることです。他の血液がんの治療同様、骨髄腫の治療にも化学療法と放射線療法が用いられます。以前は MP 療法（メルファランとプレドニゾロンの併用）が標準的治療でしたが、その後新規薬剤が登場し骨髄腫の治療はここ 10 年で大きく様変わりしています。現在日本で使用できる新規薬剤はサリドマ

イド、ボルテゾミブ、レナリドミドの 3 種類です。これらの新規薬剤を治療開始早期から積極的に使用することで治療成績が向上することが分かっています。骨髄腫は高齢者に多い病気ですが、その中で比較的年齢が低く、全身状態が良好な患者では自家末梢血幹細胞移植を併用した大量化学療法が標準的な治療として行われます。